

ほか ワンセガー高瀬の 番組チェック



文：高瀬徹朗 Takase Tetsuro
本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

6月ごろに総務省が公表したアンケート調査で、来年7月までにテレビを買い換えないとした理由に「ワンセグで代用」との意見があったことに驚いた。放送コンテンツは基本、大画面テレビを想定して制作されており、ワンセグに特化したコンテンツなどごく一部。それでも「テレビの代わりになる」と判断する、いや、せざるを得ない視聴者がいる状況が存在するとは。非サイマル放送を増やすべきなのか、12セグで見たいと思わせる努力をするべきなのか。悩ましい問題である。それではチェック、スタート。

TOKYO MX

情報番組で画期的なデータ放送開始

オーバーレイ強制表示 広告展開からユニークサービスまで

強制表示オーバーレイ

今回も12セグデータ放送が対象。それも話題の「強制表示オーバーレイ」である。

東京メトロポリタンテレビジョン (TOKYO MX) は、10月4日より平日帯の情報番組『U・LA・LA@7』【5時に夢中】などでのデータ放送オーバーレイ表示を開始した。直前のリリースおよび紹介した一般紙では、凸版印刷とのコラボ企画「得だね! Shufoo!」がクローズアップされすぎてわかりにくい、実際に見てみるとデータ放送自体のすごさがよくわかる。

では、朝7時からの情報番組『U・LA・LA@7』を対象に、データ放送をチェックしていこう。番組が開始されると、画面左端に縦6つのアイコンが並ぶ。カーソルを合わせると、右側にはそれに応じた内容の簡易版を表示。右下隅には「おでかけタイマー」が表示される。これらはすべて、オーバーレイによる強制表示だ。

アイコン最上部、黄色で表示された「得」は「得だね! Shufoo!」。「!」マークは当日の番組情報、続いて交通情報、天気予報、通信接続テレビ専用サービス、各種サービス設定などを行うTOKYO MXロゴと並ぶ。選択すると、通常の本線縮小型データ放送画面に遷移する。

「得だね」は、都内の流通店舗に関するお買い得情報を発信し、実店舗への誘導を促すという広告的側面を持った企画。本画面に遷移させると、簡単な静止画とQRコードが表示され、ケータイで読み込めば詳細の記載されたサイトへ遷移する。

「!」の番組情報とはそのまま、当日の番組内容についての情報。交通情報は首都高速の



番組でのオーバーレイ表示のイメージ



二次画面のイメージ

渋滞状況など。天気もそのままの内容だが、居住地選択によって初期表示(右側のオーバーレイ含め)を変えられる。

4つ目のアイコン「T」はTwitter。参加にはテレビへの結線が必要だが、番組内でつぶやきが取り上げられることもあるようだ。

『U・LA・LA@7』の タイマー機能

『U・LA・LA@7』データ放送のハイライトは、なんといっても「おでかけタイマー設定」だ。MXロゴを選ぶと入力画面が表示され、自身でかける時間をリモコン数字キーで入力する。つまりこの間、チャンネル変更機能を停止させているという意味で、それだけでもかなり画期的だ。

時間を入力すると、その時間までの残り何分あるのか、画面右下端に表示される。当然、リアル時間進行に合わせて表示分数も減っていく、ジャスト時間がくると番組パーソナリティの声で「Hurry up! 時間だよ」と告げてくれる。なお、時間を過ぎると超過時間がそのまま表示され続ける仕組みだ。

声や音声を使ったデータ放送サービスは過去にもあったが、視聴者側の「実利」を追求した

という点ではこれが初めてのケースかもしれない。そもそもこのタイマー機能自体、「便利で、(能動的に)使えるデータ放送」を体現した初のケースと言っても過言ではないかもしれない。

局の積極姿勢にも好感

取り組みに対するTOKYO MX自体の姿勢も積極的だ。データ放送の利用案内つきで「得だね! Shufoo!」に関するスポットCMを流したり、番組冒頭でオーバーレイ表示に関する説明をしたりと「便利なのでぜひ、使ってください」という制作サイドのメッセージが強烈に伝わってくる。

『5時に夢中』のオーバーレイでは、右側のアイコンメニューが10個用意されており、ユーザ自身が表示アイコンを切り替える仕組み。株価情報、視聴者投票などのメニューが追加されている。

こうした革新的な取り組みを「独立系UHF局だからできること」で片付けてしまうのは簡単。が、それではあまりにもったいない、と言いたくなる完成度だ。データ放送ができること、そしてデジタル放送時代に求められることをもう一度、思い起こされる見事な放送サービスと感じた。